

中筋川ダムと横瀬川ダムが中筋川の水位を下げました

～令和元年台風第18号におけるダムの防災操作～

- 台風第18号の影響により、中筋川ダム上流域では累計354mm^{※1}、横瀬川ダム上流域では累計328mm^{※2}の降雨を観測しました。

※1:10月1日21時～3日12時（時間最大42mm・2日16時）

※2:10月2日10時～3日12時（時間最大50mm・2日16時）

- この降雨により、中筋川は下流の磯ノ川地点で、氾濫注意水位（5.40m）を超える出水となりました。
- 中筋川ダムでは最大流入量の約90%をダムで貯留し、横瀬川ダムでは最大流入量の約96%をダムで貯留しました。
- 2ダムの効果により、磯ノ川地点の水位を約115cm低下し、避難判断水位超過を回避しました。

※本資料の数値等は速報値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。

令和元年10月4日
国土交通省 四国地方整備局
中筋川総合開発工事事務所

問い合わせ先

国土交通省 四国地方整備局 中筋川総合開発工事事務所

電話（0880）66-0142

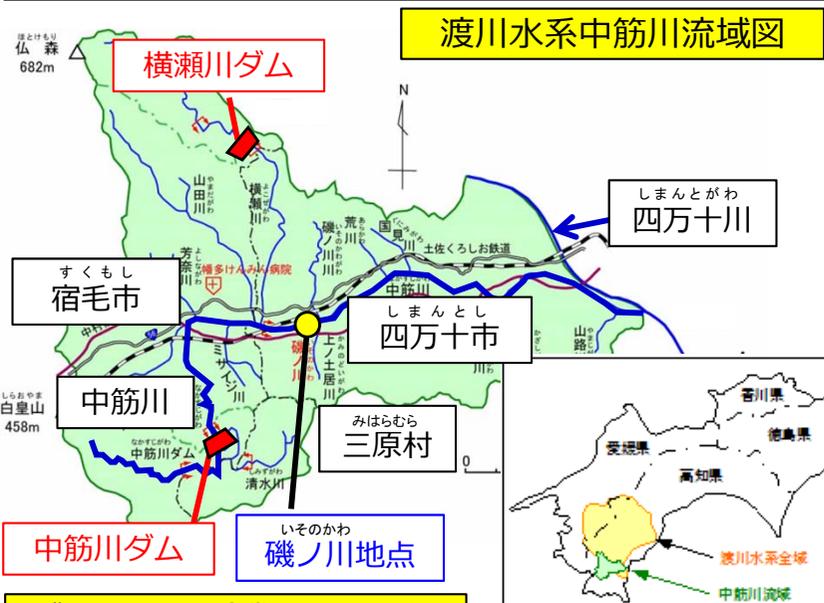
副所長	森本 修三	内線（204）
管理課長	宮崎 泰典	内線（6121）
◎調査設計課長	弘田 真一	内線（351）

◎主な問い合わせ先

中筋川ダムと横瀬川ダム(試験湛水中)の効果(高知県・渡川水系中筋川)

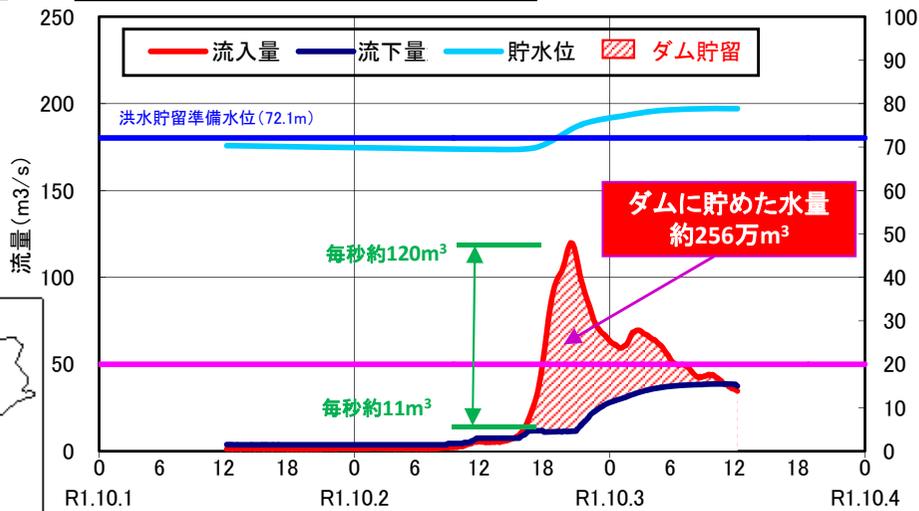
- 台風第18号により、中筋川ダム上流域では累計354mm※1、横瀬川ダム上流域では累計328mm※2の降雨を観測。
- 中筋川ダムでは最大流入量の約90%をダムで貯留し、横瀬川ダムでは最大流入量の約96%をダムで貯留。
- 両ダムの効果により、磯ノ川地点の水位を約115cm低下し、避難判断水位超過を回避。

※1:10月1日21時～3日12時(時間最大42mm・2日16時)、※2:10月2日10時～3日12時(時間最大50mm・2日16時)

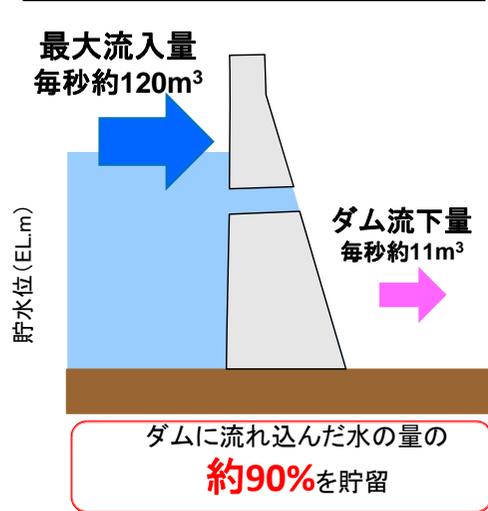


渡川水系中筋川流域図

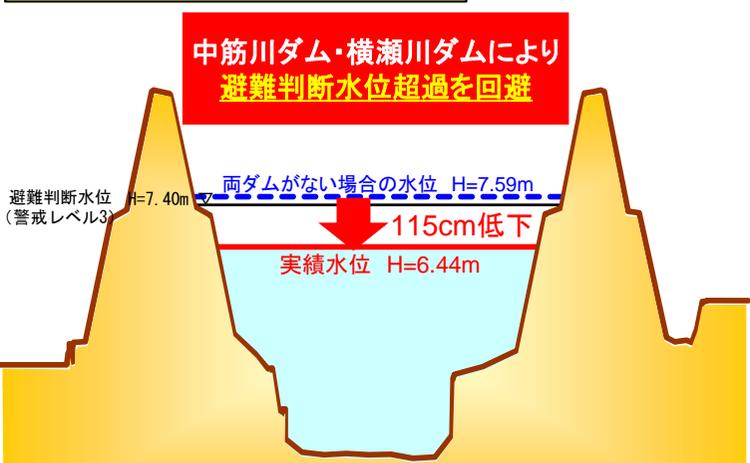
中筋川ダムの洪水貯留状況



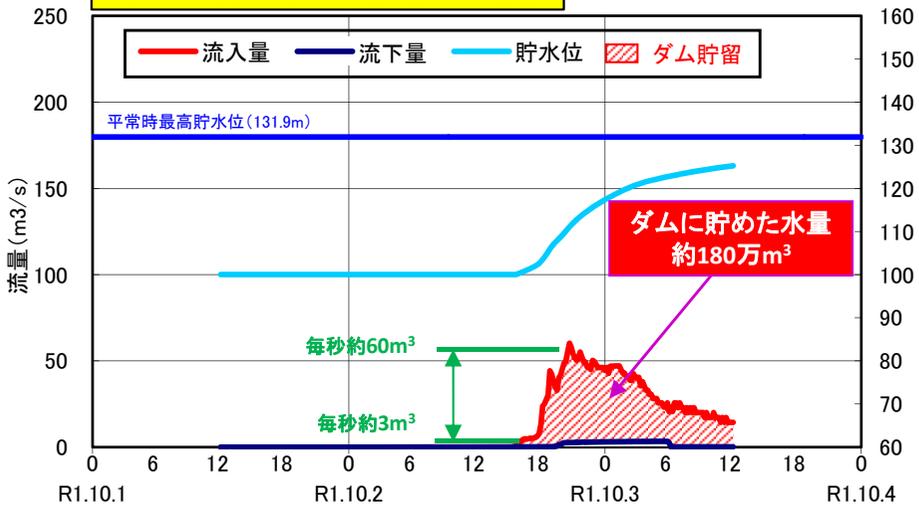
最大流入時の中筋川ダム



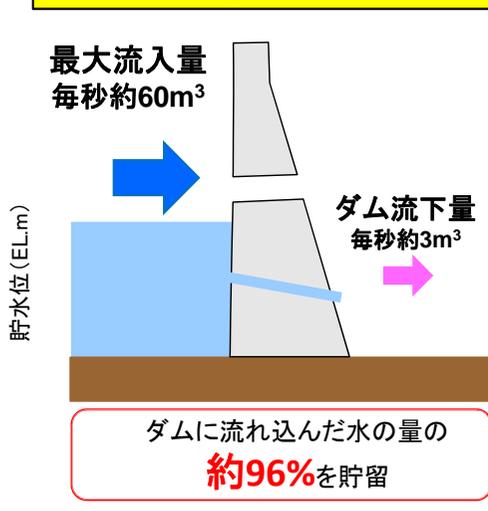
ダムの効果(磯ノ川地点)



横瀬川ダムの洪水貯留状況



最大流入時の横瀬川ダム



※上記(H:量水標)の値に0.577mを加えた値が標高(m)となります。
 ※避難判断水位とは、地元の自治体が避難準備・高齢者等避難開始を発令する目安となる水位です。

※本資料の数値等は速報値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。

ダムの貯留状況

中筋川ダム



貯留前 EL=69.41m (2日14時40分)

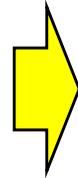


貯留後 EL=78.87m (3日10時30分)

横瀬川ダム (試験湛水中)



貯留前 EL=97.43m (2日9時00分)



貯留後 EL=127.90m (4日13時00分)